SNK

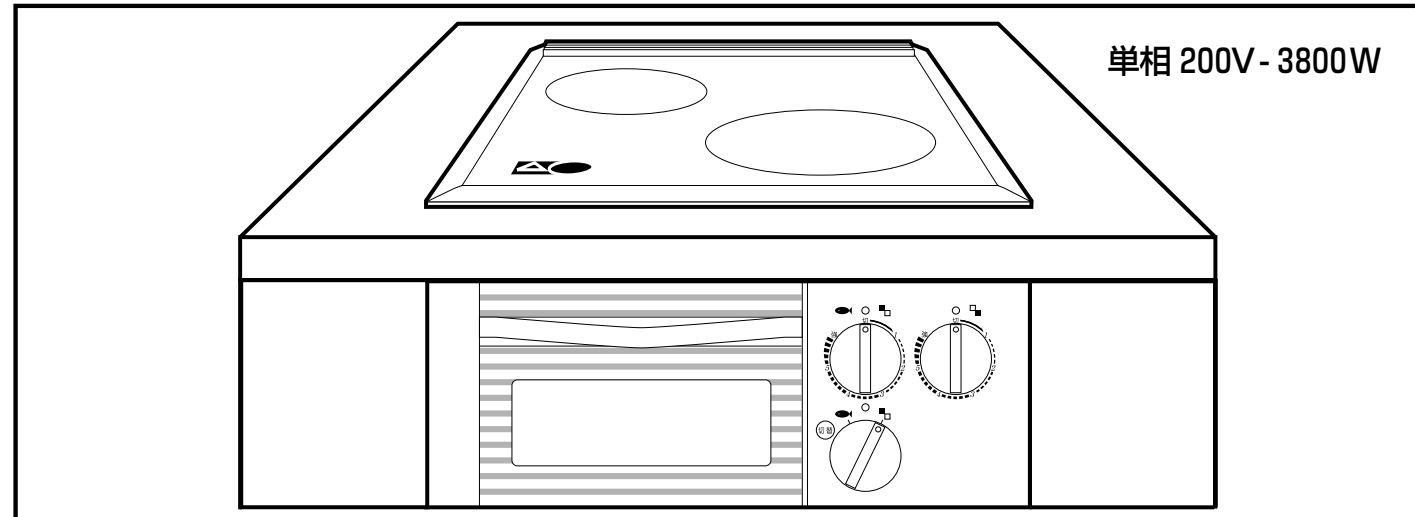
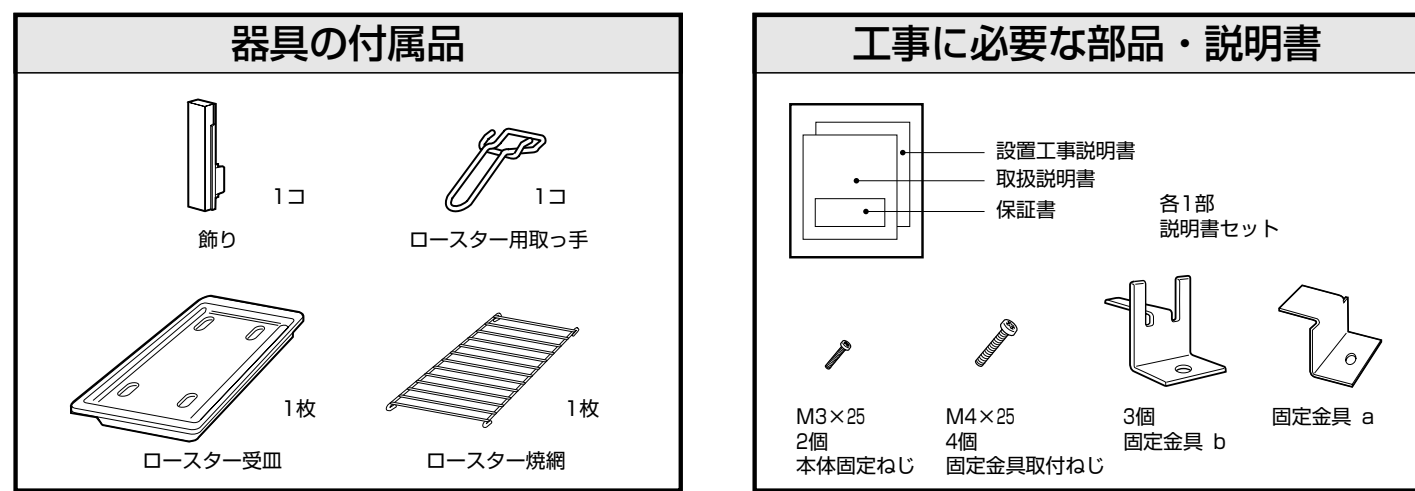
ハイグラストップ クッキングヒーター
SRH-252G
設置工事説明書

- この商品を安全に正しく設置していただくために、設置工事の前にこの設置工事説明書をよくお読みになり、この設置工事にしたがって確実に設置工事を行なってください。
- 設置工事完了後、試運転を行ない異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。
- この設置工事説明書は工事完了後、お客様にお渡しし、取扱説明書とともにお客様で保管していただくように依頼してください。

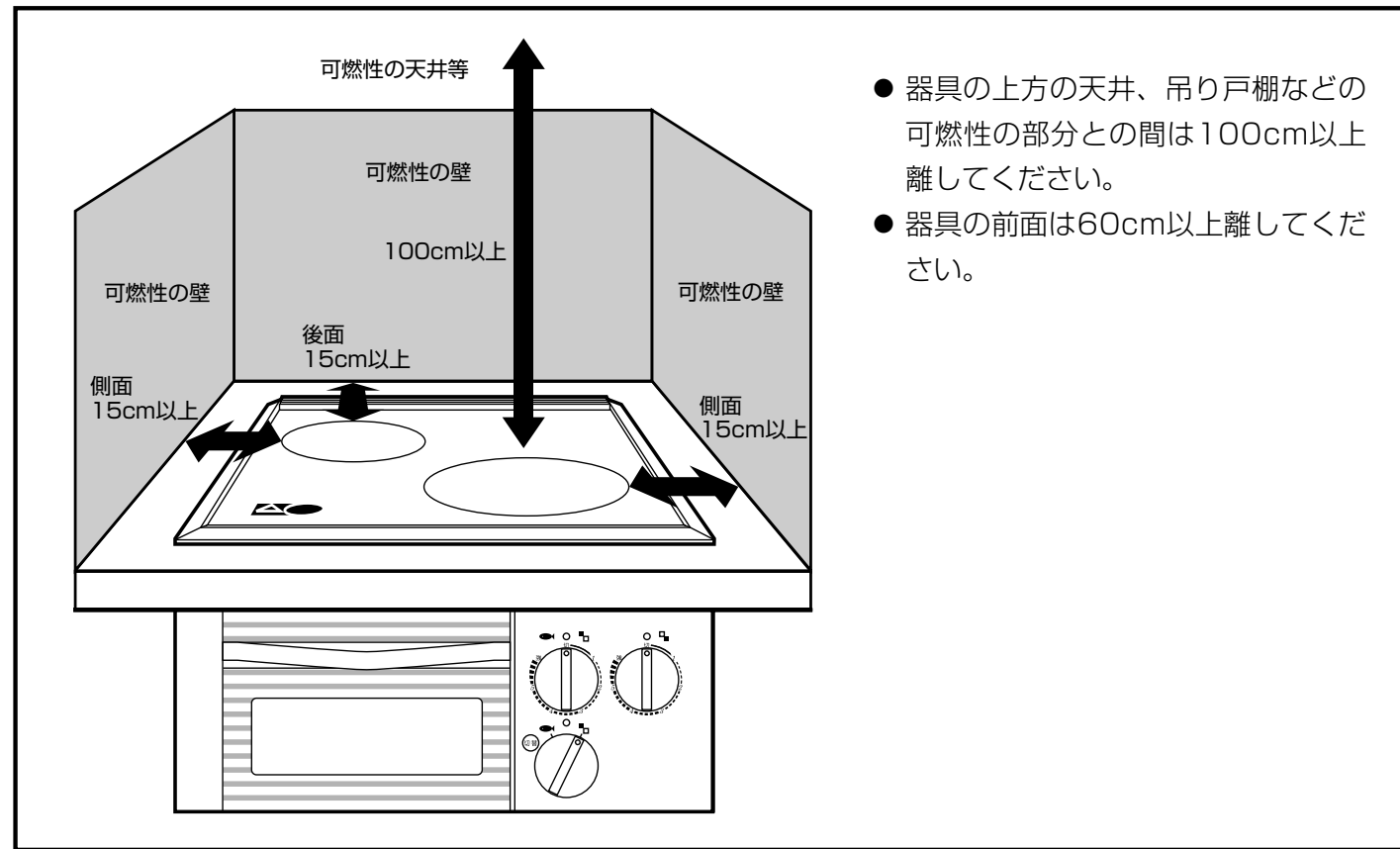
ハイグラストップ

同梱部品

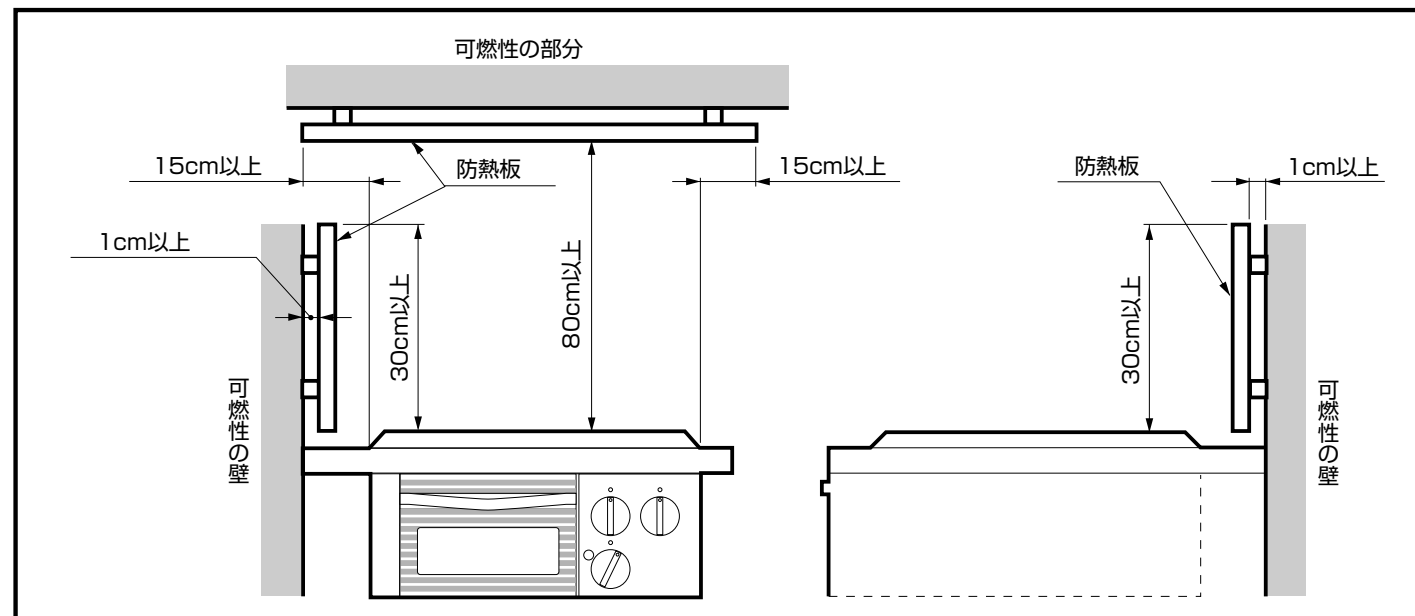
器具の付属品

工事に必要な部品・説明書

◆上記の部品が同梱されています。不足品のないことを確認してください。

設置前のご注意

■周囲が可燃性の壁の場合（防火構造壁以外）

- 器具の上方の天井、吊り戸棚などの可燃性の部分との間は100cm以上離してください。
- 器具の前面は60cm以上離してください。

■上記の距離がとれない場合

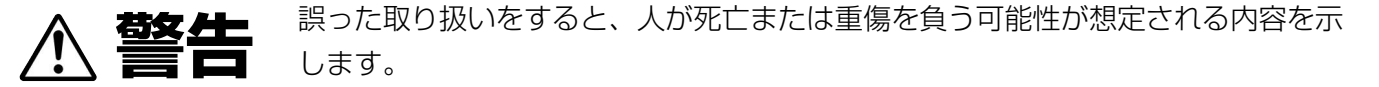
可燃性の部分
15cm以上
防熱板
15cm以上
防熱板
1cm以上
1cm以上
30cm以上
80cm以上
30cm以上
可燃性の壁
可燃性の壁

- 製品の金属部がシステムキッチンの金属部と接触する場合は、建造物の壁中の金属(メタルラスなど)とシステムキッチンの金属部と接触しないようにするか、または、製品の金属部がシステムキッチンの金属部に接触しないように取り付けてください。(電気設備技術基準第182条により義務づけられています。)

ご注意

この器具を設置される台所が、建築基準法に定める(内装制限を受ける調理室)に該当する場合は、台所全体についても内装材の制限を受けます。

安全上のご注意　必ずお守り下さい

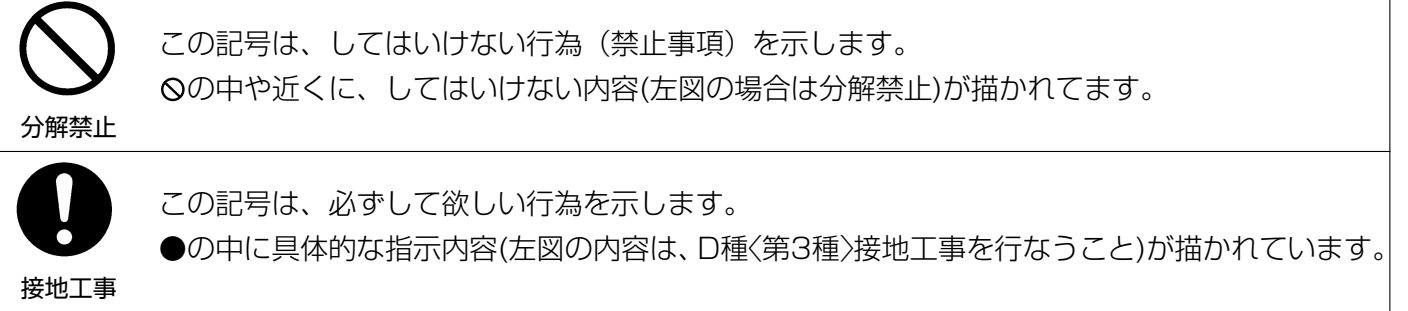
設置工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく設置してください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
表示とその意味は、次のようになっています。

⚠警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

■絵表示の例
下に示す記号は、説明書や製品に表示して、使用者に注意を促すための記号です。
書かれている内容を注意深くお読みください。

分解禁止

この記号は、してはいけない行為（禁止事項）を示します。
⊘の中や近くに、してはいけない内容(左図の場合は分解禁止)が描かれてます。

接地工事

この記号は、必ずして欲しい行為を示します。
●の中に具体的な指示内容(左図の内容は、D種〈第3種〉接地工事を行なうこと)が描かれています。

⚠警告

据え付け工事は、専門業者に依頼する

ご自分で据え付け工事をされ、不備があった場合、感電や火災の原因になります。

設置工事説明書をよく読み正しく確実に工事する

不備があった場合、感電や火災･けがなどの原因になります。

電源プラグの刃および刃の取付面にほこりが付着していないか定期的に確認し、ガタのないように根元まで確実に差し込む

ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は、感電や火災の原因になります。

コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、挟み込んだりしない

禁止
コードが破損し感電や火災の原因になります。

⚠警告

設置するときは、火災予防条例に基づいて、可燃物との離隔距離を必ず守る

距離が近いと、火災の原因になります。

器具の周囲のすき間(特にロースター部前面の周囲のすき間)を埋めて固定しない

禁止
電源部の点検やアフターサービスができなくなり、周囲が過熱して火災につながる恐れがあります。

流し台温度上昇

- 流し台に使用する材料は145℃の熱に耐えるような材料を使用してください。また、接着剤等の耐熱性にもご注意ください。
  1 異常温度上昇試験において、流し台の各部分の温度は145℃以下(基準周囲温度30℃)
  この試験条件は左右のヒーターにフライパンを空でのせ、強火で連続通電すると共に、グリルの庫内温度を約280℃に保つ状態に相当します。
  2 平常温度上昇試験において流し台の各部分の温度は95℃以下(基準周囲温度30℃)
  この試験条件は左右のヒーターに水を入れた鍋をのせ、強火で連続通電すると共に、グリルの庫内温度を約280℃に保つ状態に相当します。

製造開始の届出

- 工事現場で工事人が取り付ける時は別ですが、家具製造者等が製造活動として家具等に取り付ける時は電気用品取締法の製造規制の対象となりますので、確認してください。乙種電気用品の届出が必要です。

電気工事

- ハイグラストップは電気容量が大きいので、専用に適正配線された電源(単相200V、30A以上の専用回路)を使用してください。
- 電源の位置は、「システムキッチン加工寸法図」裏面を参照してください。
- 万一のときの安全のために、漏電遮断器の設置をしてください。

※接地工事および漏電しゃ断器の設置は、電気設備技術基準および内線規定にしたがってください。

接地工事

- ハイグラストップは定格電圧200Vですから、接地工事が必要です。
- D種(第3種)接地工事を行ない接地抵抗を測定してください。(接地抵抗値の目安は100Ω以下になる様に)法規に基づいた線を使用してください。
  (φ1.6mm以上の軟銅線で被覆が緑色のもの)
- 接地線は塩ビ電線管で保護してください。
- 接地は湿気が多く、ガス管、水道管などが埋設されていない人通りの少ない場所を選んでください。
- 避雷針の設置場所からは2m以上離してください。

⚠警告

電気配線工事は必ず電気工事登録業者に依頼する

ご自分で配線工事をされ不備があると、感電や火災の原因になります。

200V30A以上の専用回路と漏電遮断器を設置する

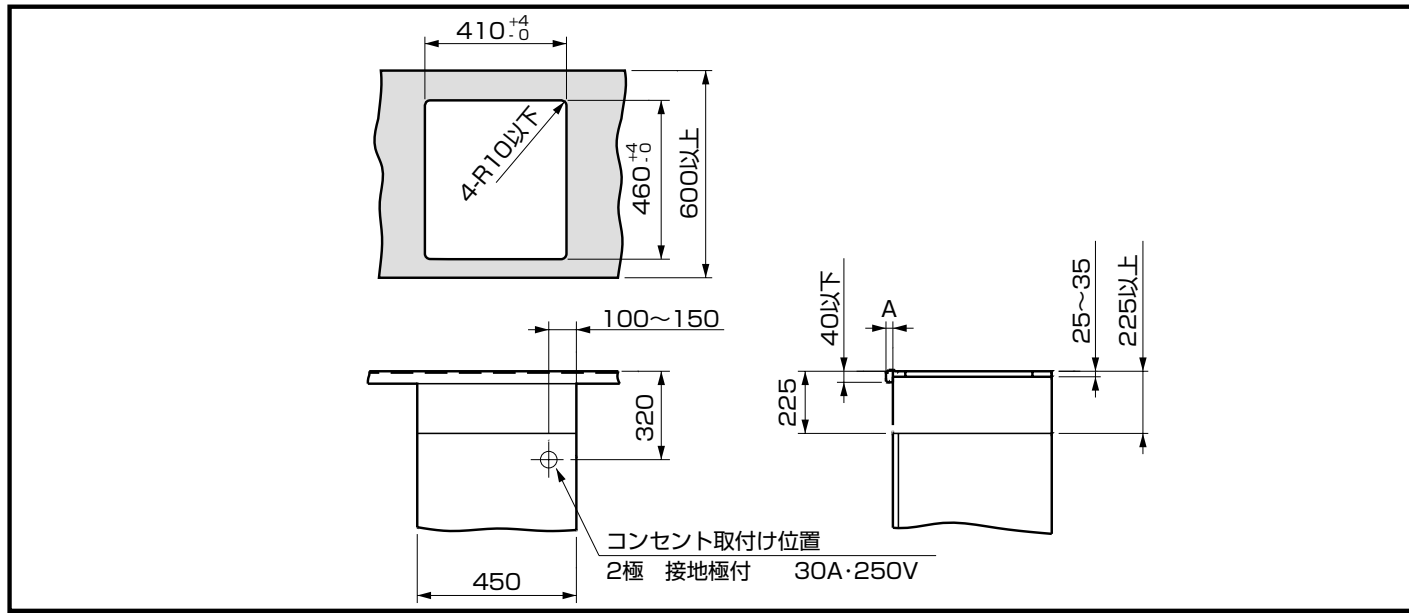
配線部が異常発熱して、発火する恐れがあります。

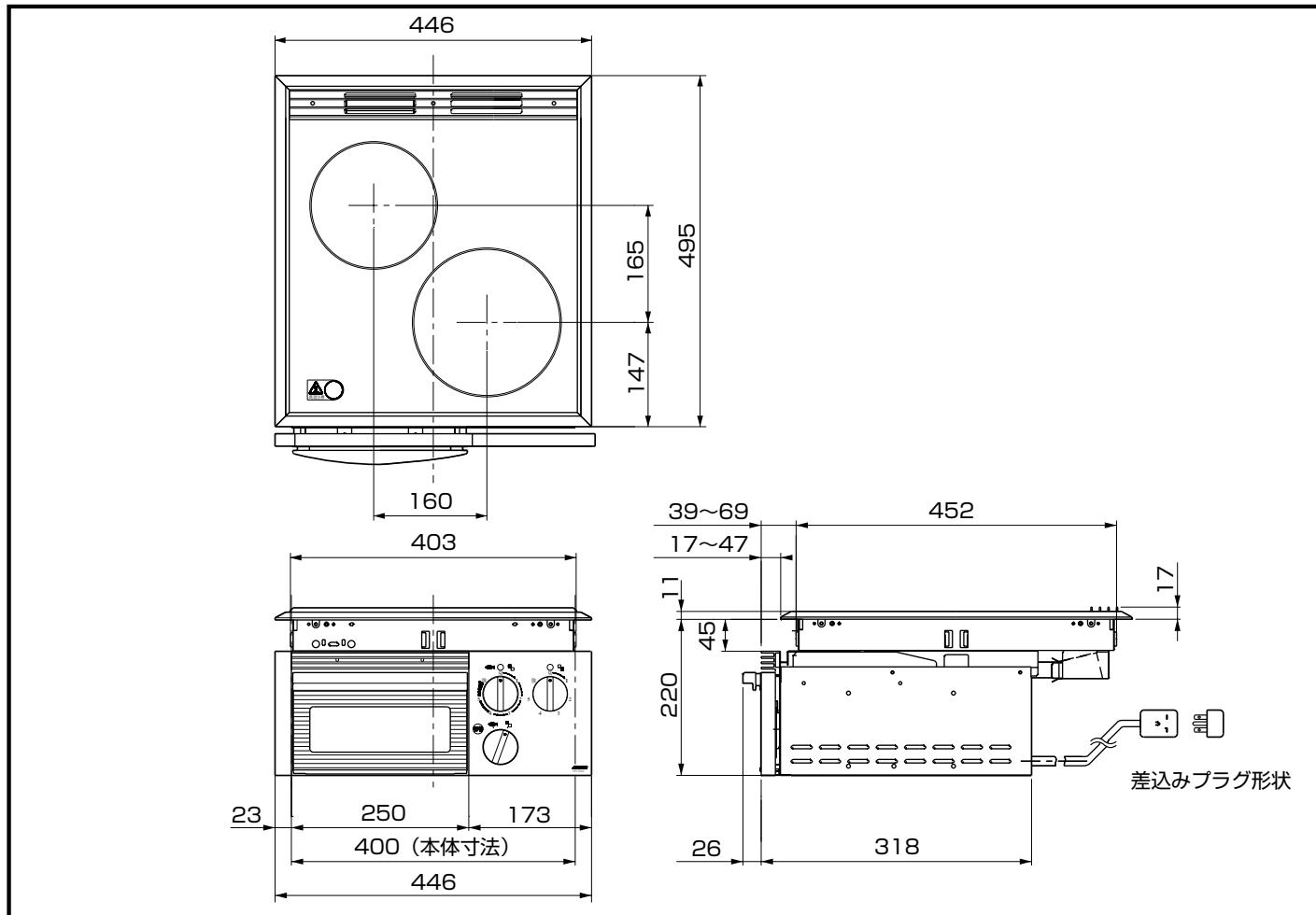
D種(第3種)接地工事を必ず行なう

アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

電源線およびアース線は、プラグを外して直結しない

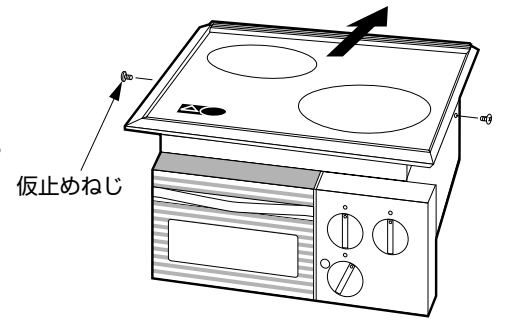
禁止
漏電やショートにつながることがあり、感電や発火の原因になります。

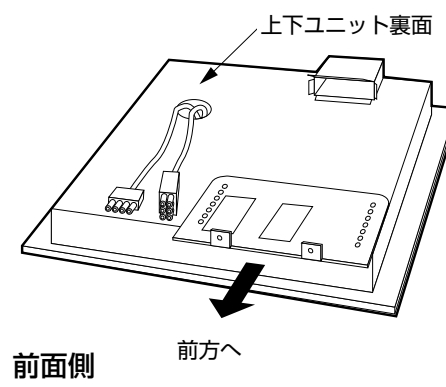
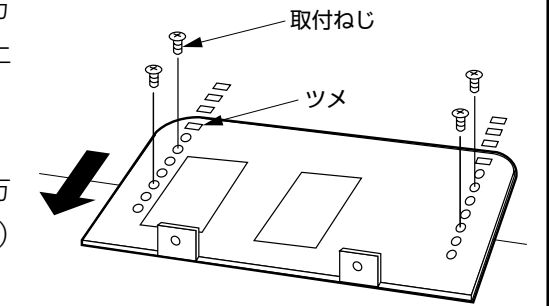
システムキッチン加工寸法図 （単位：mm）

- オーブンとの組み合わせの場合は、上図コンセント位置が異なります。オーブンに付属の説明書を参照してください。
- 取付穴の前後位置は、本体下部ユニット固定金具の移動により、上図A+35～65mmの範囲で対応できます。尚、製品出荷時は、A+35mmの位置に固定してあります。

外形寸法図 （単位：mm）

本体の取付け方法❶

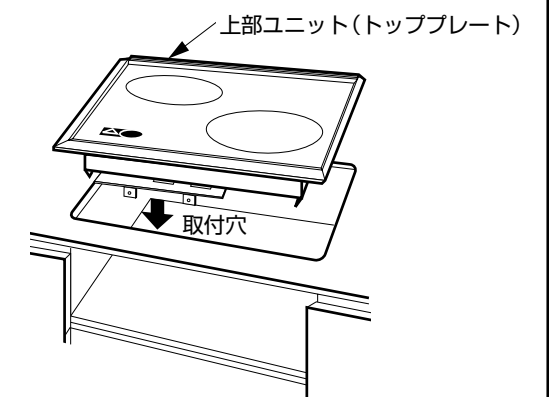
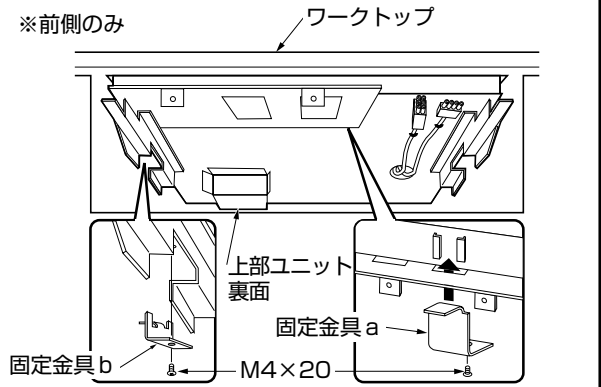
1 上下ユニットの分離

- 上下ユニットを分離します。

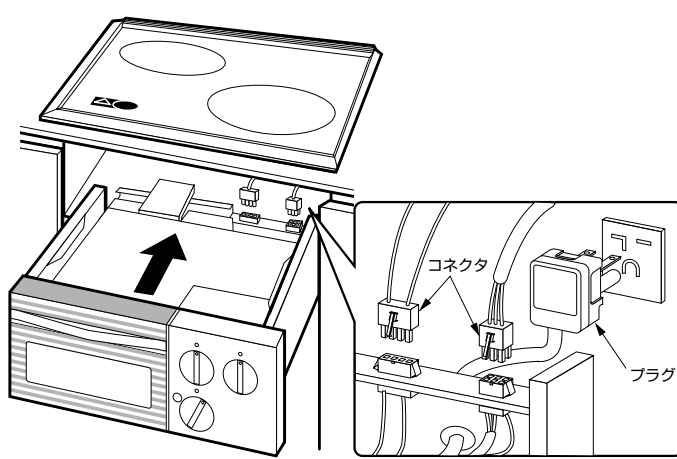
①製品の側面にある輸送用の仮止めねじ(2本)をはずします。
②上部ユニットを後方へスライドさせて、はずします。

2 固定金具の移動

- 下部ユニット固定金具の移動により「システムキッチン加工寸法図」における取付穴の前後位置がA+35～65mmの範囲で移動できます。
  製品出荷時はA+35mmの位置に固定してありますので移動が必要な場合は下記に従いあらかじめ固定金具を移動してください。

① 固定金具取付ねじ4本をはずします。
② A+45mmの場合
固定金具のツメを前方へ1コマ移動しねじ止めしてください。
③ A+65mmの場合
固定金具のツメを前方へ3コマ（最前位置）移動。

3 上部ユニットの取付･固定

- 取付穴上面より上部ユニット(トッププレート)をはめ込みます。

①上部ユニット(トッププレート)を取付穴へ、左右の隙間がほぼ均等になるようにはめ込みます。
②付属の固定金具を上部ユニット左右の固定金具取付位置に下側から差し込み、付属のねじM4×25(2本)で固定してください。
③下部キャビネットの側板等で、固定金具が左右の取付位置に差し込めない場合は、前後の取付位置を利用します。
　前固定金具a
　後固定金具b
④固定金具取付後、トッププレートのパッキンとワークトップとの隙間がないことを確認してください。

付属の固定金具で上部ユニット（トッププレート）を固定します。

本体の取付け方法❷

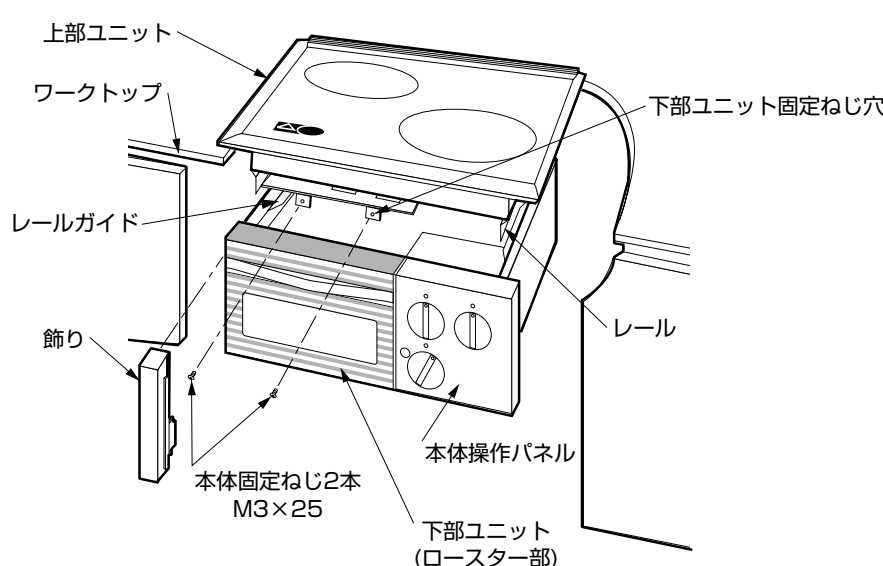
4 電気配線

- 下部ユニット(ロースター部)と接続して電源プラグを差し込みます。
  コンセントに水滴が直接流れこまぬ様コードをたるませてください。(漏電防止の為)

①専用回路のブレーカーおよび下部ユニットの火力調節つまみが「切」になっていることを必ず確認してください。
②下部ユニットをキッチンの前面穴へ近づけて電源プラグを壁面のコンセントに確実に差し込みます。
③上部ユニットから出ているコネクターを下部ユニットのコネクター部に接続します。

コネクターは根元まで確実に差し込み、ロックの爪で固定されていることを必ず確認してください。差込みが不完全な場合、通電不良･コネクターの異常過熱の原因となります。

5 下部ユニットの取付け

- 下部ユニットをキッチンに挿入します。

①上部ユニット下面の吊り下げレールに下部ユニットのレールガイドを合わせながら前方より差し込みます。
②付属の本体固定ねじ(2本)で下部ユニットのギャラリー取付穴よりねじ止めします。
③付属の飾りを下部ユニットに差し込みます。

工事完了後の確認

- 設置作業が終了したら、「設置作業確認証」にあるチェック項目を確認してください。

設置作業確認証		
	チェック項目	チェック
電気工事	①電源電圧が200Vであることを確認する。 ②D種(第3種)接地工事が確実に行なわれていることを確認する。(接地抵抗100Ω以下) ③専用コンセントを使用していることを確認する。(20A･250V接地極付) ④漏電ブレーカーが設置されていることを確認する。(感度電流30A以下) ⑤電源プラグの差込みは確実に行なわれているか確認する。 ⑥電源コードを傷つけていないか確認する。	
その他	①ロースター内にポリ袋や説明書など、可燃物を入れておかない。 ②ワークトップとトッププレートパッキンの間に隙間はないか。 ③本体をワークトップに固定したか。	
試運転	①火力調節つまみを「強」にする。➡ ･ヒーターが赤熱する。 ･高温注意ランプが点灯する。 ･通電ランプが点灯する。 ②火力調節つまみを「切」にする。➡ ･通電ランプが消灯する。 ･高温注意ランプは点灯を続ける。 ･ヒーターの赤熱が消える。	
確認年月日　　年　月　日 確　認　者		

注　意

通電しますとヒーターや本体各部が熱くなりますので完全に冷えるまで手を触れないでください。

◆この設置工事説明書は必ずお客様にお渡しください。

三化工業株式会社

〒102-0072　東京都千代田区飯田橋4丁目4番8号　TEL.03（3239）1819

0201.1001801.Y